

機能性フィルムの展開加速

「モールドをつなぎ合わせること」で面積を拡大する工程を自動化した。最大A2サイズまで高精度での大面積化が可能。従来の手作業では最長で半年を要していたが半減できる。主要工程の自動化が完了したことから、レプリカモールドの本格採用に向けたサンプルワークを加速する。

レプリカモールドの顧客開拓と並行して、複製技術を活用した機能性マイクロ／ナノ製品の開発／製品化も進めている。このうち高透明性を有する超撥水フィルムは、従来の50°の角からA4サイズに拡大。今春から試作品販売を開始した。防汚・防水効果に優れる

ため、屋外で人の手の届きにくいカメラやセンサーなどへの提案を進めており、防犯機器やカートなどからの引き合いを得ている。さらに、高耐熱・高透明性偏光板・フィルムの商品化にも取り組んでいる。透過率の制御範囲が広いワイヤクリッド式偏光板・フィルム。ヨウ素を含んだPVAを塗布して製作した既存の偏光フィルムの使用温度が90度C程度までに対し、同フィルムはマイナス20度C～160度Cに対応。透過率は20～70%。ナノパターンの線幅、高さおよび周期を変えることでさまざまな透過率の選択ができ、多様な製品へ応用できる。

化 的

は稼働開始以来、バイオ医薬や核酸医薬が順調に拡大している。キラル化合物ケールの精製増員に加え、今後増加も視野に入れ、20年には受託事業で売上高20億円を目指す。

当初は約20人規模の体制でスタートしたが、すでにフル稼働の状態。下半期以降にも新たな受注が見込める。このため増員に加えて生産能力の増強も視野に入れ、20年には受託事業で売上高20億円を目指す。

アルミ、チタンなど各種金属・合金に対応するグレードをフィンアップしている。溶解部位に偏りが生じる電解研磨に対して、化学研磨は薬液接触面が均一に溶解する利点がある。

九大がエステル合成用の鉄触媒

高活性と高化学選択性を兼備 九州大学大学院薬学研究所の大嶋孝志教授らの研究グループは、高活性と高化学選択性を兼ね備えたエステル合成用鉄触媒を開発した。これまで使用できなかった原料を用いることが可能となり、例えば安価なメチルエステルから合成化学上

で有用なターシャリーブチルエステルを合成することができ、今後は新触媒を不斉反応へ応用していきたい考え。医薬品などのさまざまな機能性分子が含まれるエステルの合成法に関する研究は盛んに行われており、近年ではグリーンケミストリーの観点から触媒を用いたエステル合成法が研究されている。ただ、利用できる原料に制限があり、とくに立体障害の大きなエステルの触媒的合成法の開発が望まれていた。

研究チームは、これまで使用が困難だった原料を用いたエステル合成を可能とする高活性鉄触媒を開発した。メチルエステルから合成できるターシャリーブチルエステルは、ペプチド合成やポリエステルなどの高分子材料の合成で重要なもの。また化学選択的反応においても、より精密な制御が要求される活性エステルを原料として利用可能。さまざまな医薬品を原料として用いることもでき、芳香族アミノアルコールの水酸基選択的アシル化も可能になるとい

で生産を開始する。天津の15年12月期の売上高は54億円。個別の損益は開示していないが、赤字続いだったもよう。もともと稼働率が低かったため今期の予想売上高55億円に変更はない。東海カーボンは15年2月に長坂一社長がトップに就任し、従来の拡大路線を転換する方策を打ち

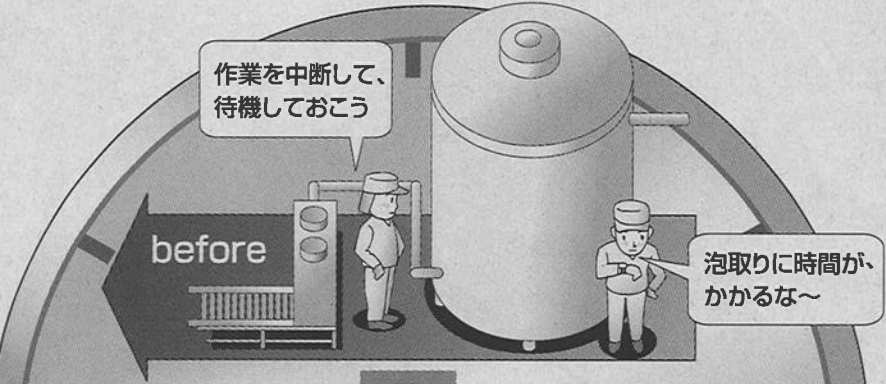
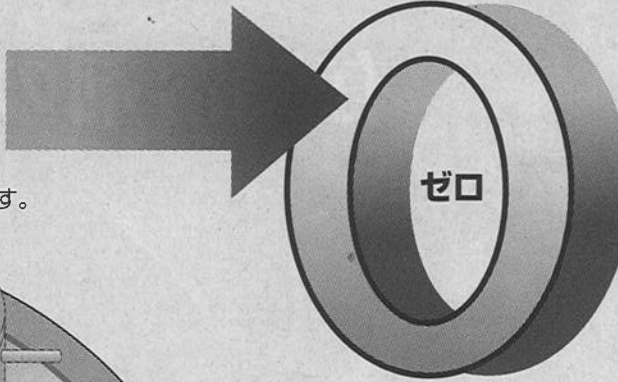
・ゴムメーカーの海外流出にともない再編に着手した。石巻工場(宮城県)では4系列のうち1系列の閉鎖を検討している。各事業にわたる規模縮小と生産品目の絞り込みにより、18年までの3ヵ年計画で連結営業利益を現在の41億円から90億円に伸ばす。

医療機器のなかでも加工に精密さが要求されるステンレスなどカテーテル治療処置具への適用を見込んでいます。医療機器や処置具メーカーへ提案を加速させる。同処理法は電子機器用精密ネジや医療機器で豊富な採用実績を持ち、縫合など手術処置具での採用が拡大。注射針においては韓国内で高いシェアを得ている。欧米やアジアに商社を通じて薬剤を輸出しているが、今後はインドも含めさらなる拡大に努める。

瞬時に脱泡・脱気!

静置時間

ヨコタの脱泡・脱気ポンプがあれば、これまでの静置用タンクは不要です。



新薬創製への挑戦!

アミノ酸誘導体とペプチド合成試薬なら
渡辺化学工業へ

Reagent for Chemist! をモットーに、
お客様のニーズに合った商品開発を行っています。

アミノ酸、保護アミノ酸

- Fmocアミノ酸
- Bocアミノ酸
- Zアミノ酸
- 特殊アミノ酸
- 非天然アミノ酸 など